定條件の決定改正及維持(三)傭者及被傭者共同管理の下に勞働供給を一途に出でしめ以て英國船舶に對する海員の供給傭入傭止及其國籍に關する詮議、規定及監督をなすことにあり

十一月二十三日及十二月十日開催せられたる海事協議會に於て海員の賃率を左の如く一定し船舶總監の承認を得たりと云ふ。

○月極賃率（食料船主持）

甲板部		
船匠	師	毎月 四・〇〇（倫志）
水夫長		同 三・〇〇
水夫長助手		同 三・〇〇
ランプ手入係		同 三・〇〇
甲板倉庫看守		同 三・〇〇
クオーターマスター		同 三・〇〇
水夫（技能優秀なるもの）		同 三・〇〇
普通水夫（二年以上海上の經驗を有するもの）		同 八・一〇
普通水夫（一年以上海上の經驗を有するもの）		同 七・〇〇
機關部		
補助機關係		毎月 三・〇〇
貯藏品看手		同 三・〇〇
火夫長		同 三・一〇
油差し		同 三・一〇
火夫（技能優秀なるもの）		同 三・一〇
同	（一ケ月以上海上の經驗を有するもの）	同 三・一〇
同	（海上の經驗一ケ月に滿たざるもの）	同 二・一〇
同		同 七・二五

○週極賃率（食料船員自辨）

甲板部		
船匠	師	毎週 四・〇〇・〇〇（倫志片）
水夫長		同 四・〇〇・〇〇
ランプ手入係		同 四・〇〇・〇〇
起重機傭		同 四・〇〇・〇〇
クオーターマスター		毎週 四・〇〇・〇〇
水夫（技能優秀なるもの）		同 三・一四・〇〇
普通水夫		同 三・一四・〇〇
機關部		
補助機關係		毎週 四・〇〇・〇〇
油差し		同 四・〇〇・〇〇
火夫		同 三・一四・〇〇

但し右賃率は總ての割增金を含み又二百噸以下の船舶乘組員船舶利益分配の條件の下に雇傭せらるゝ帆船乘組員及鐵道所有船乘組員等に適用せさるものとす。

（大正六年十二月廿六日在倫敦山崎總領事報告）

○歐米各國鐵道表（千九百十七年萬國政事年鑑に依る）

國名	鐵道總哩數	面積百平方哩に對スル鐵道哩數	人口壹萬人に對スル鐵道哩數
北米合衆國	二四三、七八九	八、三四	二五、三九
英領加奈陀	三三、三五二	〇、九三	四九、三七
大英國	三三、七〇九	一八、四九	五、三三
佛國	二三、四七一	二二、三〇	六、四三
普國	二五、六二二	八、〇二	六、六六
墺國	二四、七四七	二二、七三	五、二二
伊國	二一、六三五	一〇、三二	三、二五
白國	五、四〇一	四七、四九	七、一六
歐露國	三五、九七七	一、九三	二、七三
和蘭	二、三二三	二八、六六	三、五九
瑞典	九、二三八	二六、〇四	二六、〇四
瑞威	一、九七二	一、五六	一、五六
諸國	二、四七五	一五、八八	八、二五
丁抹	三、三七七	三二、一四	八、四二
瑞西	三、八四九	五、二二	九、二二
葡萄牙	一、八四九	四、九三	三、一〇
西班牙	九、三七七	四、九三	四、九三
日本	七、九二七	三、〇四	一、四二
支那	五、九六〇	〇、一五	〇、一九

英領印度　三五、八三　三、二六　一、四七

○本邦に於ける石炭と運賃　歐洲戰爭の爲め船腹の不足を告けてより、船舶運賃の暴騰は空前の觀あり、船舶管理令の如き調節の制度も未た充分に此間の調理を遂くる能はす、貿易の好潮に伴ふて運賃の騰貴に拘はらす、多くの航路は何れも貨主より船腹を競爭獲得するに努め、前途容易に運賃の低落戰前に復するの望み無きか如く、假りに歐米の航路に就きて戰爭前後の運賃を比較するに

		戰前平均	五十志
英佛方面	雜貨一噸		
米國方面	雜貨一噸	戰前平均	六弗半

なりしものか、戰後には英佛方面平均九十志九片に上り、米國方面は九弗を呼ふに至り、然かも此等は何れも日本郵船の定期航路即ち國庫補助によりて其筋の認可を要する運賃率にして、是の外に所謂日本郵船會社の臨時船と稱する分、及社外船にては英佛方面は戰後に於て約三百六十四志（戰前は定期船と同樣）に上り、米國方面は三十弗を算し、其他近東方面に於ても二倍乃至三倍の騰貴を見さるはなく、且つ海外航路の好況如是なるに連れ、我邦に於て多くの船舶は出來得る限り之を海外航路に充當したる結果、內國の航路も從つて船舶不足よりする運賃の暴騰を來せる事は言ふ迄も無く、內國航路にては嘗て三千噸級を用ひもしのか千噸級を代用し、千噸級の箇所には三、五百噸級を用ひ次第に船舶を引上けて、

		明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年	明治四十四年
一月	六五錢	四八錢	五八錢	六五錢
二月	六二	五五	五五	六〇
三月	六五	七一	八〇	七五
四月	六六	七五	八九	一一八

遂に日本形船舶の利用大に增加するに至りしか、今は日本形船舶も亦供給の不足を告け居る有樣にて、門司若松を中心とせる一部に於て最近一ヶ年間に於ける日本形船舶の增加は約二倍强と稱し、同期間に於て運賃の騰貴は六割に近き有樣を示し居れとも、日本形船舶の不足は現に依然たるものゝ如くなりと云ふ。

されは石炭の運賃の如き之を戰爭前に比するに殆んと十倍に達したる事あり、先是明治四十二年頃海運業の悲境に際し石炭の運賃か門司濱間噸約四、五十錢臺に低落し五、六十錢臺に停滯したる期間も決して短からさりし時代と戰爭後噸八九圓乃至十圓に上りたる時とを對照すれは、其間實に隔世の感無き能はす、現に噸六十錢の運賃を以て石炭を引受くるは停船繫留と利害如何を考究したるは是の悲境時代の事にして當時郵船會社船か噸八十錢にて石炭を引受けたる話柄もあり戰爭の少しく前に噸八、九十錢より一圓臺を呼ひたる時船舶側の爲めに愁眉を開きたる程なりしか、大正三年より同四年の交に於て稍活氣を呈し、船舶不足か事實となりて運賃に影響するに至り、大正五年の秋季より石炭の好況を呈すると共に參圓五、六十錢臺より遂に四圓八十錢の聲を聞き、更に六年に入りて最高十圓以上の突飛を爲すに至りたり。門司に於ける某會社に就きて明治四十一年以來每月の平均運賃を調査するに大正六年十二月迄十ヶ年の經過左の如し。

	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年
一月	五七錢	九〇錢	六一錢	六〇錢	一、九二錢	四、七七錢
二月	六八	一、一〇	六一	一、〇三	一、七二	四、九一
三月	八八	一、二八	七五	一、四〇	二、一〇	五、九八
四月	一、一八	一、三五	一、〇〇	一、三〇	三、二二	六、一五

五月	八五	九七	九〇	一〇七	一二八
六月	八〇	八九	九〇	九三	一二〇
七月	七二	八二	七三	八五	一二八
八月	五八	七四	六八	七八	一二八
九月	五〇	六三	六五	八五	一二〇
十月	六二	六〇	六三	一一〇	一二五
十一月	五五	六三	七〇	八八	一一五
十二月	五〇	六〇	六八	六八	九三

運賃暴騰の際船腹を競爭するに當りては、時に此の表示以上突飛の協定を見たるもの無きに非さるも、如是は强ち時價の標準と爲す可らず、此に表示したる某會社は自ら炭鑛を經營し石炭の販賣を爲すと共に、自ら汽船會社を經營するものにして數字は其の支拂にかゝる實際を平均(毎月)したるものり。

此と對照すへく九洲鐵道管理局の同年季間に於ける石炭運賃收入、及一噸當り平均運賃を表示すれは左の如し。(但し海運賃表の一年は暦年にして九管局の分は會計年度に依る)

年度	運賃收入額	一噸平均運賃
	円	円
四十一年度	五、一〇四、一六一	七二
四十二年度	五、〇〇五、九六九	七〇九
四十三年度	五、一九五、〇二二	六八二
四十四年度	五、七八一、五一二	六六六
元年度	六、一八〇、七四三	六四八
二年度	六、七七三、六〇四	六四四
三年度	六、五〇四、一八三	六四二
四年度	五、九八八、九六〇	六四四
五年度	六、六五六、二二三	六四五

大正六年に於ける數字は未詳なるも四月より九月迄の合計は運賃收入三百九十一萬六千三百七十三圓餘にして一噸の平均運賃は六十三錢二厘に該當せり。

○千九百十六年中世界に於ける原油産出額

千九百十六年中世界に於ける原油産出額は北米合衆國地質調査所の調査公表せる處によれば次表の如し。

國別	千九百十六年 佛噸	千九百十五年 佛噸			
	バレル	バレル			
北米合衆國	* 三〇〇、七六七、一五八	四〇、一〇二、二八八	* 二八、一一〇、四一、一〇四	六八、五四八、〇六二	三、〇五
露西亞	× 七二、八〇一、一一〇	九、九三三、三八七			六、四七
墨西哥	三九、八一七、四〇二	五、三〇八、九八七	三二、九一〇、五〇八	一、四三	八、〇八
蘭領東印度	×× 一三、一七四、三九九	一、八二〇、二四七	×× 一二、三八六、八〇八	一、五二	二、四七
ルーマニア	× 一〇、二九八、二〇八	一、四三二、二九六	一二、〇二九、九一三	一、二八	九、〇六
印度	〃 八、二二八、五七一	一、〇九七、一四三	八、二〇二、六七四	一、〇五	六、六〇
ガリシヤ	六、四六一、七〇六	八九八、六七〇	四、一五八、八九九	一、〇九	二、〇〇
日本(樺太を含む)	二、九九七、一七八	三、九九、六二四	三、一一八、四六四	一、四〇	一、四〇
秘露	二、五五〇、六四五	三四〇、〇八六	二、四八七、二五一	一、〇〇	一、〇〇
トリニダッド	〃 一、〇〇〇、〇〇〇	一三九、〇八二	〃 七五〇、〇〇〇	一、〇〇	一、〇〇
獨逸	九九五、七六四	一四〇、〇〇〇	九九五、七六四	一、〇〇	一、〇〇
アルゼンチン	八七〇、〇〇〇	一一六、〇〇〇	五一六、一一〇	一、〇〇	一、〇〇
埃及	四一、〇〇〇	五四、八〇〇	二二、七六八	一、〇〇	一、〇〇
加奈陀	一九八、一二三	二六、四一六	二一、五四、四六四	一、〇〇	一、〇〇
伊太利	四三、一四三 〃	六、〇〇〇	三九、五四八	一、〇〇	一、〇〇
其他	〃 二五、〇〇〇	三、五三三 〃	一〇、〇〇〇	一、〇〇	一、〇〇
合計	四六〇、六〇九、四〇七	六一、八一八、三五九	四二七、六九五、三四七	一、〇〇	一、〇〇